

BOOK TRAIN



『スピニー通りの ひみつえ 秘密の絵』

L.M. フィッツジェラルド/著
ちば しげきやく
千葉 茂樹/訳
あすなる書房

「卵の下を探すんだ」。祖父の遺言が指すものを
探すセオは、彼が描いた絵の下に聖母子の絵を見
つけた。メトロポリタン美術館に出入りし、美術の
知識を仕込まれたセオは、この絵が価値のあるも
のと確信する。祖父はどこでこの絵を手に入れ、な
ぜ隠したのか。知られざる祖父の経歴。謎はたくさ
んの人を巻き込んで、セオに出会いと友情と思わ
ぬ結果をもたらす。



『天を掃け』

くろかわ ゆうこ ちよ
黒川 裕子/著
なかむら ゆみ/絵
こうだんしゃ
講談社

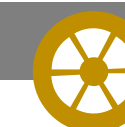
中学生の駿馬は、モンゴルの草原で鍛えた脚力を
期待されて短距離走を始めるが、大会でけがをし、
治っても本気で走れなくなった。自分の弱さを知り
ともだちとやらだら過ごしていた頃、ひとりで小惑星探
索に挑む、同学年のすばるに会う。駿馬は不登
校のすばるを天文部に誘い、自らも小惑星を追う
ことにのめりこんでいく。天体観測の方法や機材に
も注目。



『はじまりは、 まっしろな紙』

キョウ・マクレア/文
ジュリー・モースタッド/絵
やぎ きょうこ やく
八木 恭子/訳
フレーベル館

アメリカに移住した日本人の両親のもと 1908年
に生まれた女の子ギョウ。幼いころから差別を受
けて育つが、日本を訪れるなどして大好きな絵の
勉強を続けていた。やがてアメリカで戦争が始ま
り、ギョウと家族は厳しい現実と直面する。ディズニ
ースタジオでも活躍したギョウ・フジカワ。絵の力
で差別に立ち向かった彼女の生き方は、とても魅
力的だ。





『秘密の花園』

じょうげ
上・下

バーネット/作
やまのうち れいこ やく
山内 玲子/訳
いわなみしよてん
岩波書店

インドで両親を失った十歳のメアリは、英国のおじにひきとられ、ムア(荒野)に建つ大きなお屋敷に住むこととなった。そこには、花もなく枝が伸び放題に荒れ果てた、十年間立ち入ることを禁じられている庭園があった。その庭の鍵を偶然に見つけたメアリは、病弱のいとこコリン、動物の言葉がわかるディコンという仲間を得て、「秘密の花園」を甦らせようとする。



『平安男子の 元気な！生活』

かわむら ゆうこ ちょ
川村 裕子/著
いわなみしよてん
岩波書店

和歌を詠み合う、優雅なイメージの平安男子。しかし、その生活は意外にもハードだった。日の出前の起床、身分次第の出世、僅かな失敗が足を引っ張る緊張の毎日なのだ。古典の登場人物たちを例に挙げ、話し口調で説いた生活の様子は楽しく読めて、千年前の男子や作品が今までになく身近に感じられる。同著の「平安女子の楽しい！生活」は電子版もあり。



『しずかな魔女』

いちかわ さくこ さく
市川 朔久子/作
いわさきしよてん
岩崎書店

中学生の草子は、学校に行けない日々を図書館で過ごしていた。ある日、心ない一言で傷つく草子に、司書の深津さんは「しずかな子は魔女に向いている」という言葉をお守りとして渡す。その言葉が何の本に載っているのか気になった草子は本探しを依頼するが、渡されたのは『しずかな魔女』と書かれた紙の束だった。気持ちをうまく言葉に出来ない少女が小さな一歩を踏み出す物語。



『アドリブ』

さとう まどか ちょ
佐藤 まどか/著
あすなろ書房

イタリアに母とふたりで暮らすユージ。ある日、彼はフランキジャーナ国立音楽院の生徒によるコンサートで、フルートの音色に魅了される。演奏経験は もちろん、フルートに触れたことすらない。それでも、ユージは「フルートをやりたい」気持ちひとつで、国立音楽院の入学試験を受けに行った。それから5年、15歳になったユージは人生の岐路に立たされていた。

